

決算補足説明資料

2025年度 通期 業績概要

注意事項

- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2025年3月1日～2026年2月28日)

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

本日はお忙しい中、当社 決算説明会にご参加いただきありがとうございます。

それでは、2025年度 通期の業績概要についてご説明いたします。

1ページにお進みください。

当決算におけるポイント（サマリー）

➤ 2025年度 通期 実績

➔ 売上収益 … 前期比+0.8%

- ・ 新規受注を確実に売上につなげ、受注残の正常化を進めた前期と比較し増加

➔ 営業利益 … 前期比▲ 5.7%

- ・ 売上増により付加価値が増加するも、為替影響および間接費増加をカバーできず減益

➔ 税引前利益 … 前期比▲ 36.8%

親会社の所有者に帰属する当期利益 … 前期比▲ 38.2%

- ・ 持分法適用会社の株式譲渡益を計上した前期に対し減益

➔ 第4四半期 受注 … 前年同期比+20%・前四半期比+10%

- ・ AI・半導体関連分野向けの需要拡大を背景とした受注増や鉄鋼プラント関連の大口受注などにより前年同期比・前四半期比ともに増加

➤ 2026年度 通期 見通し

➔ 売上収益:5,800億円、営業利益:600億円

- ・ AI・半導体関連分野を中心とした旺盛な需要を背景に、足元において受注が好調に推移していることなどを踏まえ、増収増益を計画
- ・ 想定為替レートは、1USD=145円、1EUR=170円、1CNY=20.5円、1KRW=0.105円
- ・ 26年度の年間配当は72円/株(中間:36円・期末:36円)、配当性向は39.7%を予想

当決算におけるサマリーです。詳しくはこの後にご説明いたします。

それでは、5ページにお進みください。

1. 2025年度 通期 連結業績

- 2025年度 通期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2025年度における取組み
- AIロボティクス領域の拡大に向けた取組み

2. 2026年度 通期 連結業績見通し

- 2026年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析
- 2026年度における取組み
- 株主還元（配当金推移）

3. 参考資料

- 設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 売上収益・営業利益 四半期推移
- 直近四半期営業利益増減要因分析
- 売上収益 四半期推移
- 四半期受注推移
- 参考定量情報

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ACサーボドライブ、コントローラ
- ・リニアサーボ
- ・インバータ
- ・太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・PMモータ

など



YRMコントローラ「YRM1030」



ロボット

【主要製品】

- ・産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - ハンドリング用途向け
- ・AIロボット、人協働ロボット
- ・半導体製造装置用ロボット
- ・バイオメディカル用途向けロボット

など



システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・鉄鋼プラント用電気システム
- ・港湾クレーン
- ・上下水道用電気システム

など



その他

- ・物流サービス

など

1. 2025年度 通期 連結業績

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

- ・売上収益は新規受注を確実に売上につなげ、受注残の正常化を進めた前期に比べ増加
- ・営業利益は売上増により付加価値が増加するも、為替影響および間接費増加をカバーできず減益

	2025年度	2024年度	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上収益	5,421億円	5,377億円	+44億円	+0.8%
営業利益	473億円	502億円	▲28億円	▲5.7%
税引前利益	496億円	785億円	▲289億円	▲36.8%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	352億円	570億円	▲217億円	▲38.2%

25年度通期の実績です。

当期の経営環境は、地政学的リスクや米国の関税政策などにより、不透明な状況が続きました。自動車市場では投資案件の延期や見直しが見られた一方で、半導体を中心とした市場では回復の動きが見られました。

このような中、当社グループの業績については、売上収益は、新規の受注を確実に売上につなげたことにより、受注残の正常化を進めた前期に比べ増加しました。

営業利益については、売上増により付加価値が増加したものの、為替影響および間接費の増加をカバーできず、前期に比べ減益となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益については、持分法適用関連会社の株式の一部譲渡に伴う株式譲渡益などを計上した前期に比べて、減益となりました。

これらの結果、売上収益は前期比0.8%増の5,421億円、営業利益は5.7%減の473億円、税引前利益は36.8%減の496億円、当期利益は38.2%減の352億円となりました。

それでは、次の6ページにお進みください。

2025年度 通期 実績 (セグメント別)

- ・売上収益は、主にロボットにおける大口案件の売上などにより増加
- ・営業利益は、モーションコントロール・システムエンジニアリングの増益が寄与したものの、ロボットの影響により減少

(単位: 億円)	2025年度		2024年度		前年同期比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上収益	5,421		5,377		+44	+0.8%
モーションコントロール	2,361		2,388		▲27	▲1.1%
ロボット	2,470		2,374		+96	+4.0%
システムエンジニアリング	387		384		+4	+1.0%
その他	203		232		▲29	▲12.3%
営業利益	473	8.7%	502	9.3%	▲29	▲5.7%
モーションコントロール	244	10.3%	230	9.6%	+14	+6.0%
ロボット	204	8.3%	238	10.0%	▲33	▲14.0%
システムエンジニアリング	50	12.9%	46	12.0%	+4	+8.3%
その他	20	9.8%	16	6.9%	+4	+24.9%
消去または全社	▲45	-	▲28	-	▲17	-

売上収益、営業利益のセグメント別内訳です。

全社の売上収益は、主にロボットの大口案件の売上などにより前期比で増加しました。

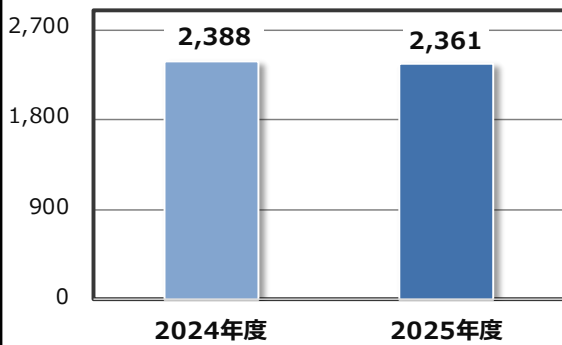
営業利益は、モーションコントロールとシステムエンジニアリングの増益が寄与しましたが、ロボットの影響により前期比で減少しました。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の7ページへお進み下さい。

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



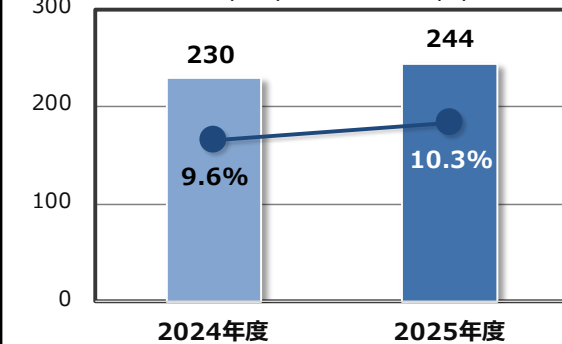
【売上収益】

- ACサーボは米国・アジアの半導体市場向けの販売が減少も電子部品・工作機械市場向けの販売が好調に推移し増収
- インバータは米国の太陽光発電用パワーコンディショナや空調用途向けの販売が堅調も、中国・アジアのインフラ関連向けの販売減少や前期に受注残の正常化を進めた影響もあり減収

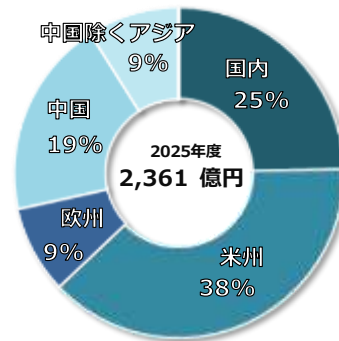
【営業利益】

- 付加価値の改善などにより増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。

売上収益は、前期比1.1%減の2,361億円、
営業利益は6%増の244億円となりました。

ACサーボは、上期に需要が低調に推移した半導体市場向けの販売が主に米国・アジアで減少しましたが、電子部品および工作機械市場向けの販売がAI関連投資などにけん引され、好調に推移し、増収となりました。

インバータは、米国でデータセンタ向けを含む空調用途や、太陽光発電用パワーコンディショナの販売が増加した一方で、中国・アジアのインフラ関連向けの販売が減少し、減収となりました。

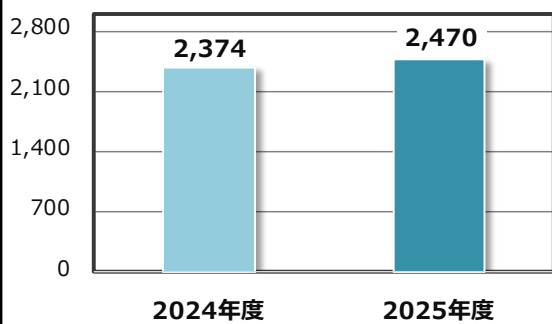
これらの結果に加え、前期に受注残の正常化を進めた影響もあり、セグメント全体では減収となりました。

利益面については、付加価値の改善などにより増益となり、
営業利益率は10.3%となりました。

それでは、次の8ページへお進み下さい。

主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



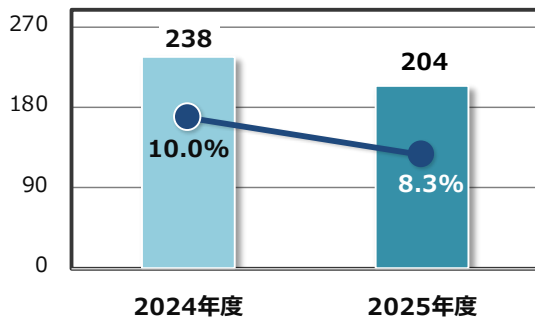
【売上収益】

- 自動車市場では、日本・米州・欧州で販売が減少した一方で、中国・アジアでは大口案件の売上により販売が増加
- 一般産業分野の設備投資需要をグローバルで捉え、セグメント全体では増収

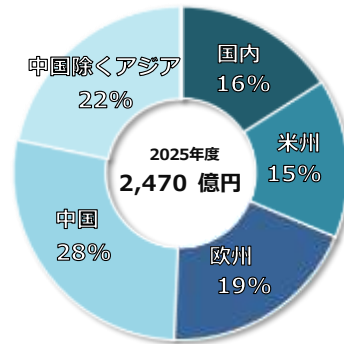
【営業利益】

- 大口案件の付加価値の影響により減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前期比4%増の2,470億円、
営業利益は、14%減の204億円となりました。

自動車市場向けは日本・米州・欧州で販売が減少した一方で、
中国およびアジアでは大口案件の売上により販売が増加しました。

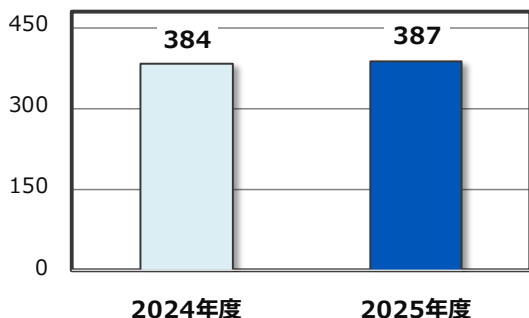
また、一般産業分野における設備投資需要をグローバルで捉えた結果、
セグメント全体の売上収益は前期比で増加しました。

利益面については、大口案件の付加価値の影響により減益となり、
営業利益率は8.3%となりました。

それでは、次の9ページにお進みください。

主要事業の概要 システムエンジニアリング

売上収益(億円)



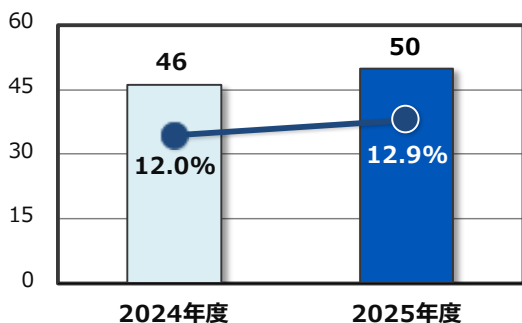
【売上収益】

- 鉄鋼プラントおよび社会システム向けの販売が底堅く推移し増収

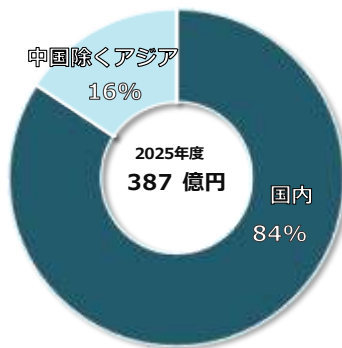
【営業利益】

- 売上増に伴う利益増や付加価値改善が寄与し増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



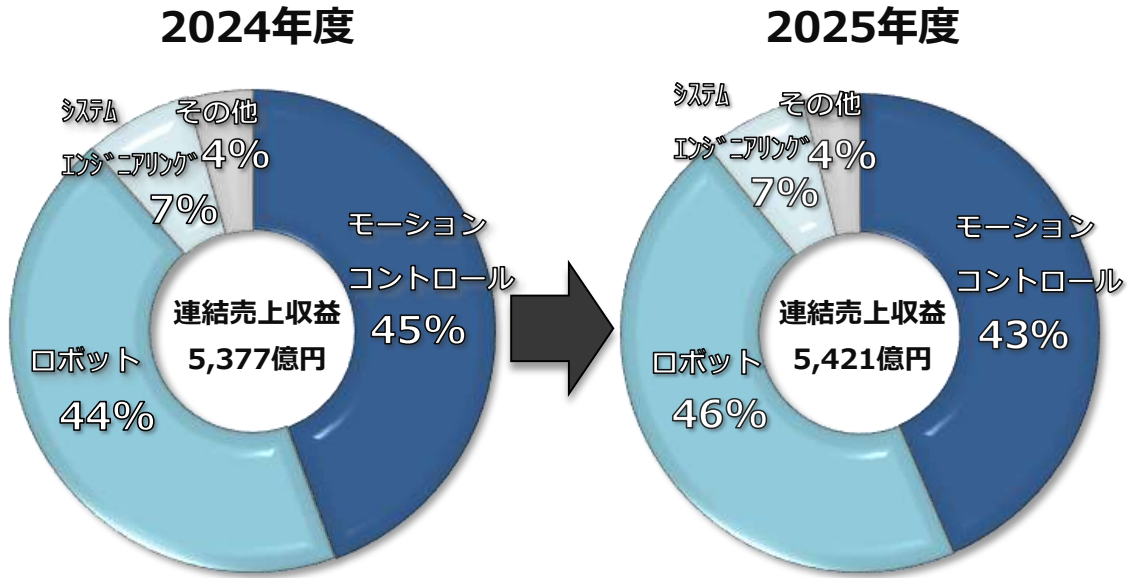
システムエンジニアリングの状況です。

売上収益は、前期比1%増の387億円、
営業利益は、8.3%増の50億円となりました。

鉄鋼プラントおよび社会システム向けの販売が底堅く推移し、
売上収益は前期比で増加しました。

利益面については、売上増に伴う利益増や付加価値改善が寄与し増益となり、
営業利益率は、12.9%となりました。

それでは、次の10ページにお進みください。



セグメント別の売上収益 構成比です。

前期と比較すると、モーションコントロールが2ポイント減少した一方、ロボットが2ポイント増加しました。

この結果、モーションコントロールは43%、ロボットは46%となりました。

システムエンジニアリングの構成比は7%となっております。

それでは、次の11ページにお進みください。

所在地別売上収益

・中国・アジアが増収も、主に欧州が減収となり全体としては横ばい

(単位：億円)	2025年度	2024年度	前 期 比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上収益	5,421	5,377	+44	+0.8%
国内	1,484	1,492	▲8	▲0.6%
海外	3,937	3,885	+53	+1.4%
米州	1,285	1,295	▲10	▲0.7%
欧州	681	730	▲48	▲6.6%
中国	1,161	1,131	+30	+2.6%
中国除くアジア	810	729	+81	+11.1%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。
中国、アジアが増収となりましたが、主に欧州の減収によって全体としてほぼ横ばいとなっています。

地域別の状況ですが、国内については、電子部品市場は期を通じて好調に推移し、半導体市場も期の後半に需要の回復が見られました。また、一般産業分野における自動化需要や鉄鋼プラント・社会システム向けの需要が堅調に推移しました。一方、自動車市場における設備投資の需要は軟調に推移しました。

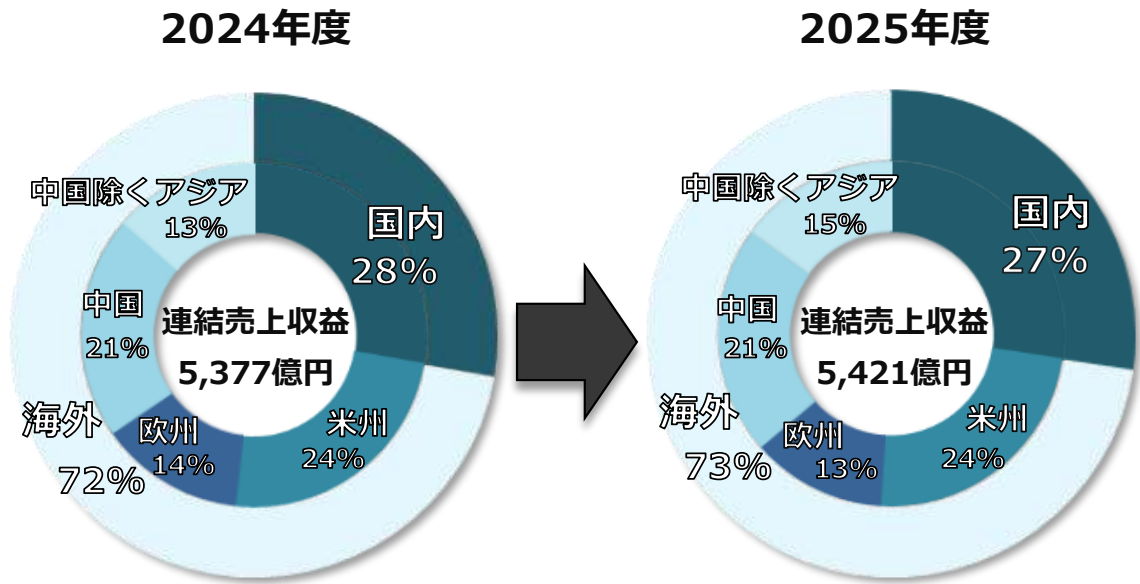
米州では、一般産業分野に加え、データセンタ向けを含む空調関連、オイル・ガス関連、太陽光発電用パワーコンディショナなどを中心に需要は拡大基調となりました。一方、自動車市場や工作機械市場における需要は伸び悩みました。

欧州については、半導体、工作機械、一般産業の分野では需要の回復が見られましたが、自動車市場の設備投資は低調に推移しました。

中国では、半導体、工作機械、一般産業の分野に加え、自動車市場においても堅調な投資が継続し、需要は底堅く推移しました。

中国除くアジアについては、韓国・台湾における半導体関連需要が期の後半に拡大基調となり、韓国の自動車市場においても設備投資が堅調に推移しました。

それでは、次の12ページにお進みください。



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

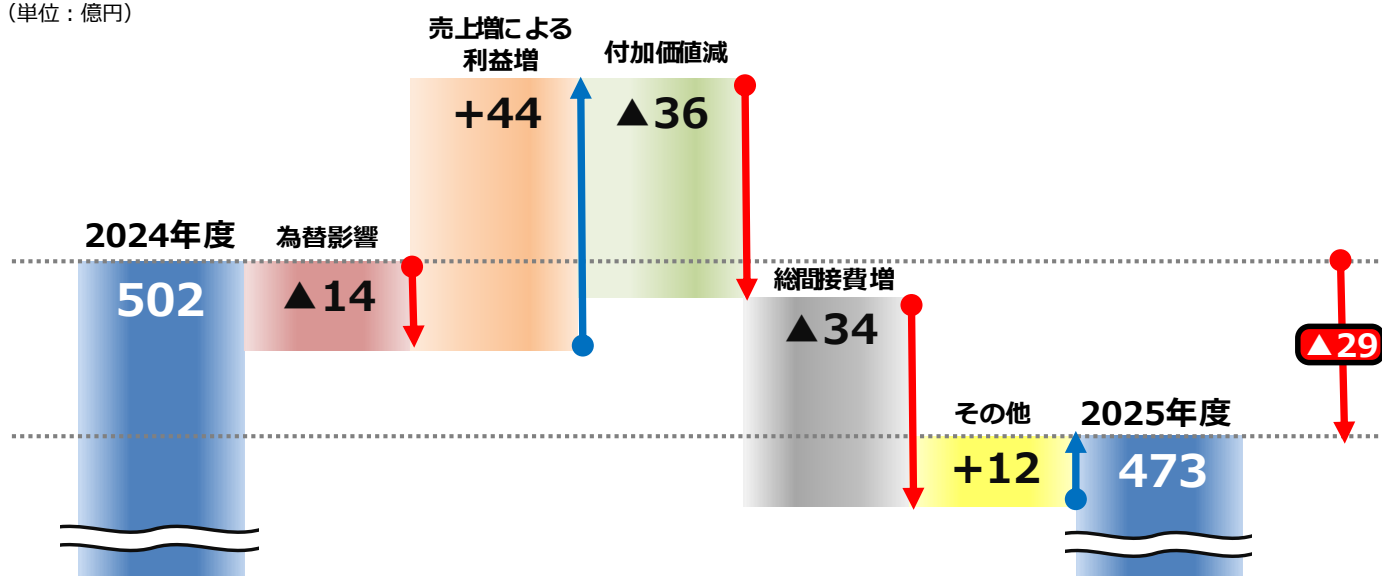
所在地別の売上収益 構成比は、国内が前期から1ポイント減少し、27%に、海外は1ポイント増加し、73%になりました。

海外の内訳として、欧州が1ポイント減少した一方で、アジアが2ポイント増加しました。

それでは、次の13ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2024年度 → 2025年度）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	▲ 6	▲ 7	+ 25	▲ 4	+ 6
ロボット	▲ 8	+ 51	▲ 67	▲ 12	+ 2
システムエンジニアリング	+ 0	+ 2	+ 3	▲ 1	+ 0
その他	▲ 0	▲ 3	+ 3	▲ 17	+ 4

営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前期の502億円から29億円減少し、473億円となりました。

為替による影響は、ユーロを除く各主要通貨が円高に推移し、マイナス14億円。

売上増による利益増は、主にロボットの販売量増加が影響し、プラス44億円。

付加価値はマイナス36億円。

部品の内製化効果や棚卸評価損の減少がプラスに寄与した一方で、ロボットの大口案件の付加価値がマイナスに影響しました。

総間接費の増加による影響は、賃金の改善やYDX（安川デジタルトランスフォーメーション）の情報投資などを積極的に進めたことから、マイナス34億円。

最後の「その他」はプラス12億円です。

2024年度に実施した欧州地域の事業再編の反動影響が主な要因となっています。

それでは、次の14ページにお進みください。

“i³-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

開発力の強化

- 既存の作業環境で人の代替が可能な自律性と高い作業力を備えたAIロボット(MOTOMAN NEXT)の双腕型開発
- ロボティクスをAIと通信技術で強化し、ロボットが人と柔軟に協働する未来の実現を目指してソフトバンク(株)と覚書締結
- 東京ロボティクス(株)株式の100%取得および同社の知見を活用したヒューマノイド用アクチュエータの開発着手
- 人協働AIロボット「MOTOMAN NEXT-NHC12」が日刊工業新聞社「十大新製品賞※」本賞受賞



梱包作業を実現する
双腕型のAIロボット(MOTOMAN NEXT)



MOTOMAN NEXT-NHC12

生産力の強化

- 米国における本社・技術開発拠点・産業用ロボット生産工場等を集約した新キャンパス設立への着手および一部インバータ製品の生産開始
- サーボとロボットの一貫生産を行うロボット第5工場(福岡県北九州市)の竣工および生産開始(2026年3月から順次)
- システムエンジニアリング事業の強化に向けた南行橋事業所(福岡県行橋市)の竣工



新設された南行橋事業所

※ その年に開発または実用化した新製品の中から、モノづくりの発展や日本の国際競争力強化に役立つ製品を選定し表彰

25年度の取組みです。

開発面では、AIロボット「MOTOMAN NEXT」の双腕型の開発に取り組むとともにAIロボティクスの領域を広げるために、AIと通信技術に強いソフトバンク様と昨年12月に覚書を締結し、社会実装に向けた活動を加速しています。

また、東京ロボティクスの株式を100%取得し、同社の知見を活用しながら、ヒューマノイドロボットに搭載するアクチュエータの開発を進めています。

さらに、人協働タイプのAIロボット「MOTOMAN NEXT-NHC12」が、モノづくりの発展や日本の国際競争力強化に貢献する製品として評価され、日刊工業の「十大新製品賞」の本賞を受賞しました。

生産面では、米国における事業の遂行力を強化する目的で、新キャンパス構想を発表し、一部のインバータ製品の生産を開始しています。

また、北九州の本社地区においては、サーボとロボットの一貫生産を行うロボット第5工場が竣工しました。MOTOMAN NEXT含む生産を、今年の3月から順次開始しています。

加えて、事業基盤の強化を目的に再編を進めていたシステムエンジニアリング事業において、連結子会社の安川オートメーション・ドライブの本拠地となる南行橋事業所が竣工しました。

15ページへお進みください。

販売力の強化

- ▶ セル構築の効率化やグローバル標準技術への対応を実現した製品（『YRM1030』『iC9200』）の発売による、i³-Mechatronicsを実現するコントローラソリューション「iCube Control」のラインアップ強化
- ▶ JA全農と協業開発した「きゅうり収穫作業ロボット」の実導入完了
- ▶ 南米(コロンビア)における販売拡大およびブランド力向上を目的とした Variadores S.A.S.^{※1}株式の100%取得



YRMコントローラ
「YRM1030」



マシンコントローラ
iC9226M-EC

メカトロニクス応用領域の事業拡大による サステナブルな社会実現への貢献

- ▶ 再生医療等製品の製造プラットフォームの開発・提供を行うセラファ・バイオサイエンス(株)のアステラス製薬(株)との設立(2025年9月29日)
- ▶ 「まほろ」によるロボット式細胞培養自動化システムのFDA(米国食品医薬品局)先進製造技術指定取得(日本企業初)
- ▶ Oishii社^{※2}日本拠点において、FAMS^{※3}のいちご播種・育苗用のアグリネ^{※4}二次試作機の導入完了



きゅうり収穫ロボット

※1 コロンビア メデジン市に本社を置く産業用オートメーション機器の販売・製造会社

※2 米国ニュージャージー州を拠点にいちごを製造・販売するベンチャー企業。2023年5月より当社と資本業務提携を開始

※3 新潟に拠点を置く当社の子会社で主に農業・食品向けの製品・ソリューションを開発・販売

※4 完全人工光型植物工場システム

販売面では、“i³-Mechatronics”を実現するコントローラソリューションである、「iCube Control」のラインアップを強化しています。

また、JA全農と協業で開発してきた「きゅうり収穫作業ロボット」の現場導入が完了しています。

加えて、南米における販売拡大とブランド力向上を目的に、産業用オートメーション機器で高いシェアを誇るコロンビアの Variadores社の株式を、100%取得しました。

メカトロニクス応用領域の拡大については、アステラス製薬様とともに、セラファ・バイオサイエンス社を設立しました。

セラファが開発したロボット式の細胞培養自動化システムは、日本企業としては初めて、米国食品医薬品局から先進製造技術指定を取得しています。これにより、このプラットフォームで製造した細胞に対して、医薬品としての認証スピードが、米国で大幅に向上することが見込まれます。

また、業務提携するOishii社の日本拠点で、当社の子会社であるFAMSの植物工場システム「アグリネ」の導入検証を進めており、いちごの播種と育苗用の2次試作機の導入が完了しました。

- ・安川電機が定義するAIロボティクスとは『**モーションとAIの融合**』
 - ・ロボット自身が「見て」「触って」「判断し」それに基づいた「動作」につなげる
- AIによる認識・判断を自律的な動きに変え、ロボットが対応できる作業領域を拡張

実際の導入事例

医療器材仕分けの自動化



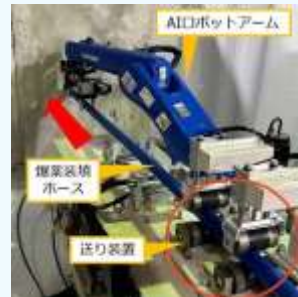
使用済み医療器材をAIで認識しロボットで仕分け。形状・状態が異なる器材を正確に判別し、**感染症リスクゼロの作業環境を実現。**

粉体計量・投入工程の自動化



AI解析により粉体形状を認識し、最適なすくい取りと微量調整を自律実行。**人手依存工程の安定化と高精度秤量を実現。**

発破工程の遠隔・無人化



AI画像解析で装薬孔を高精度に検出。ロボットによる爆薬装填を遠隔化し、**危険作業の無人化と安全性向上に貢献。**

AIロボティクス領域の拡大に向けた取組みについてご説明します。

安川電機が定義するAIロボティクスとは、「モーションとAIの融合」です。具体的には、AIによる認識・判断を、自律的な動き、つまり「モーション」に変えることで、これまで人に頼らざるを得なかった作業や、ばらつきが大きく自動化が難しかった工程にも対応できるようになります。

このように、ロボットが対応可能な作業領域を拡張していくことが、当社が目指す、AIロボティクスの領域拡大の狙いです。

実際の導入事例は資料に記載している通りですが、AIロボティクスによって、医療・製造・建設などの幅広い分野でお客様の現場の課題を解決し、より安全で高付加価値な自動化を実現して行きます。

18ページにお進みください。

2. 2026年度 通期 連結業績見通し

・AI・半導体関連分野を中心とした旺盛な需要を背景に、足元において受注が好調に推移していることなどを踏まえ、2026年度は増収増益を計画

	2026年度	2025年度	前年同期比	
	見通し	実績	増減額	増減率
売上収益	5,800億円	5,421億円	+379億円	+7.0%
営業利益	600億円	473億円	+127億円	+26.8%
税引前利益	650億円	496億円	+154億円	+31.1%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	470億円	352億円	+118億円	+33.4%

2026年度 通期の業績見通しです。

AI・半導体関連分野を中心とした旺盛な需要を背景に、足元において受注が好調に推移していることなどを踏まえ、増収増益を計画します。

売上収益は5,800億円、
営業利益は600億円、
税引前利益は650億円、
当期利益は470億円となる見通しです。

また、営業利益率については10.3%となる想定です。

なお、26年度通期における想定為替レートは、
ドルを145円、ユーロを170円、人民元を20.5円、韓国ウォンを0.105円
とそれぞれ想定しています。

続いて、19ページにお進みください。

2026年度 通期 見通し (セグメント別)

	2026年度		2025年度		前年同期比	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
(単位: 億円)						
売上収益	5,800		5,421		+379	+7.0%
モーションコントロール	2,800		2,361		+439	+18.6%
ロボット	2,400		2,470		▲70	▲2.8%
システムエンジニアリング	400		387		+13	+3.3%
その他	200		203		▲3	▲1.5%
営業利益	600	10.3%	473	8.7%	+127	+26.8%
モーションコントロール	420	15.0%	244	10.3%	+176	+72.2%
ロボット	210	8.8%	204	8.3%	+6	+2.8%
システムエンジニアリング	32	8.0%	50	12.9%	▲18	▲35.8%
その他	13	6.5%	20	9.8%	▲7	▲34.9%
消去または全社	▲75	-	▲45	-	▲30	-

売上収益、営業利益の見通しのセグメント別内訳です。

モーションコントロールについては
売上収益を2,800億円、
営業利益を420億円、
営業利益率を15%と予想します。

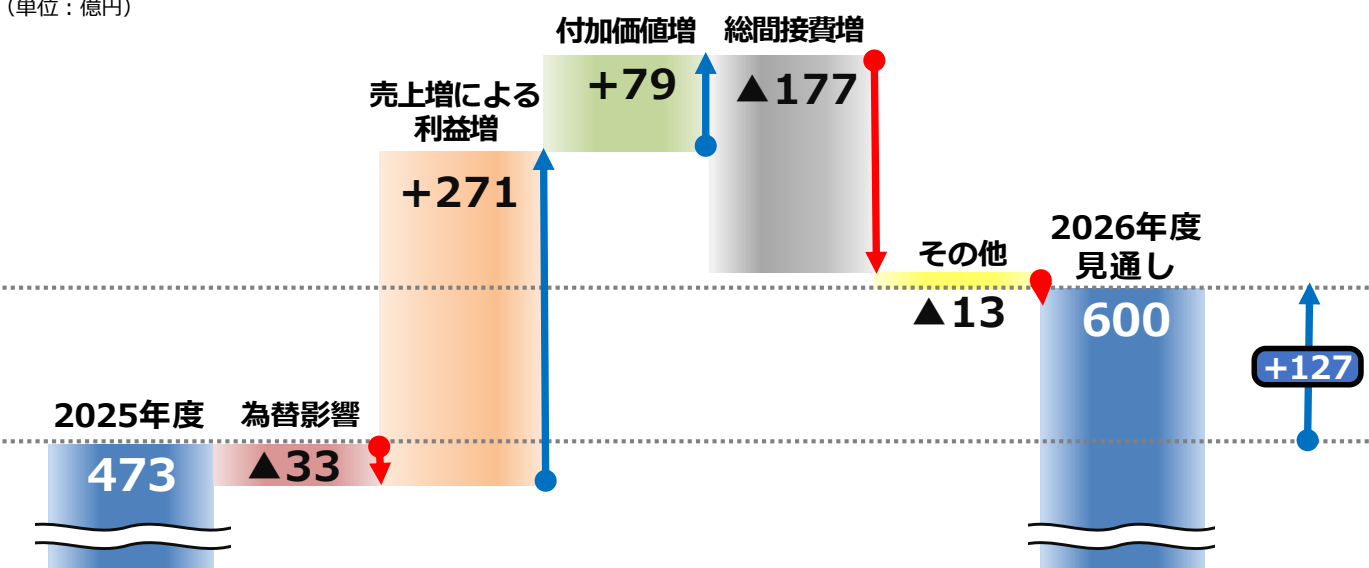
ロボットについては、
売上収益を2,400億円、
営業利益を210億円、
営業利益率を8.8%と予想します。

システムエンジニアリングについては、
売上収益を400億円、
営業利益を32億円、
営業利益率を8%と予想します。

それでは、次の20ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2025年度 → 2026年度見通し）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	▲20	+275	+14	▲97	+4
ロボット	▲13	▲12	+67	▲27	▲10
システムエンジニアリング	▲0	+8	▲3	▲22	▲1
その他	▲0	▲0	+1	▲32	▲6

YASKAWA

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

20

通期見通しにおける営業利益増減要因分析です。

2026年度の営業利益は、前年度の473億円から127億円増加の600億円を計画します。

為替による影響は、円高の影響を想定し、マイナス33億円。

売上増による利益増はモーションコントロールを中心に、プラス271億円。

付加価値の増加はプラス79億円。

新製品への切替え効果や、モーションコントロールとロボットにおける部品の内製化効果、棚卸評価損の減少が、プラスに寄与する想定です。

総間接費の増加による影響は、マイナス177億円。

賃金改善による労務費の増加や、減価償却費などの投資コストの増加、活動費の増加による影響を織り込みます。

最後の「その他」はマイナス13億円。

25年度の中国における構造改革費用の反動影響がプラスとなる一方、欧州事業の再編に係るコストなどによるマイナス影響を含めています。

それでは、次の21ページにお進みください。

“i³-Mechatronics”ソリューションによる価値創出

開発力の強化

- アクチュエータの技術開発・実証を通じたヒューマノイドロボット領域の深耕
- 半導体市場の新技术(3Dパッケージ等)へ対応した最適製品・技術の開発

生産力の強化

- ロボット第5工場(福岡県北九州市)の安定稼働による変種変量・止まらない生産の実現
- 南行橋事業所(システムエンジニアリング工場・福岡県行橋市)の本格稼働開始

販売力の強化

- MOTOMAN NEXT拡販に向けた即時導入可能なパッケージ商品の開発とSier・装置メーカーとの協業による販売活動の推進
- マトリクスコンバータU1000を軸としたデータセンタ市場における建屋空調および機器冷却設備向け販売の拡大



ロボット第5工場の外観



細胞製造プラットフォームで稼働する汎用ヒト型ロボットLabDroid「まほろ」

メカトロニクス応用領域の事業拡大による サステナブルな社会実現への貢献

- JA全農などの農業現場における野菜や果物の収穫・選果ソリューションの展開加速
- 人の判断のデジタル化とAI活用を通じた医療現場における「まほろ」導入範囲の拡大

26年度における取り組みです。

開発面では、新型アクチュエータの開発を加速させ、ヒューマノイドロボット領域を深耕します。

また、拡大している半導体市場に向けて、3Dパッケージングをはじめとする先端技術に対応した製品・技術開発を進め、需要を確実に捕捉します。

生産面では、ロボット第5工場を安定稼働させ、「変種変量で止まらない生産」を実現します。新設した南行橋事業所においては、システムエンジニアリング事業の基盤強化を加速させます。

販売面では、MOTOMAN NEXTの拡販を、Sier・装置メーカーと協業し加速します。

また、北米を中心に高い評価を得ているマトリクスコンバータU1000を軸に、データセンタ市場における建屋空調や機器冷却設備向けの販売を拡大します。

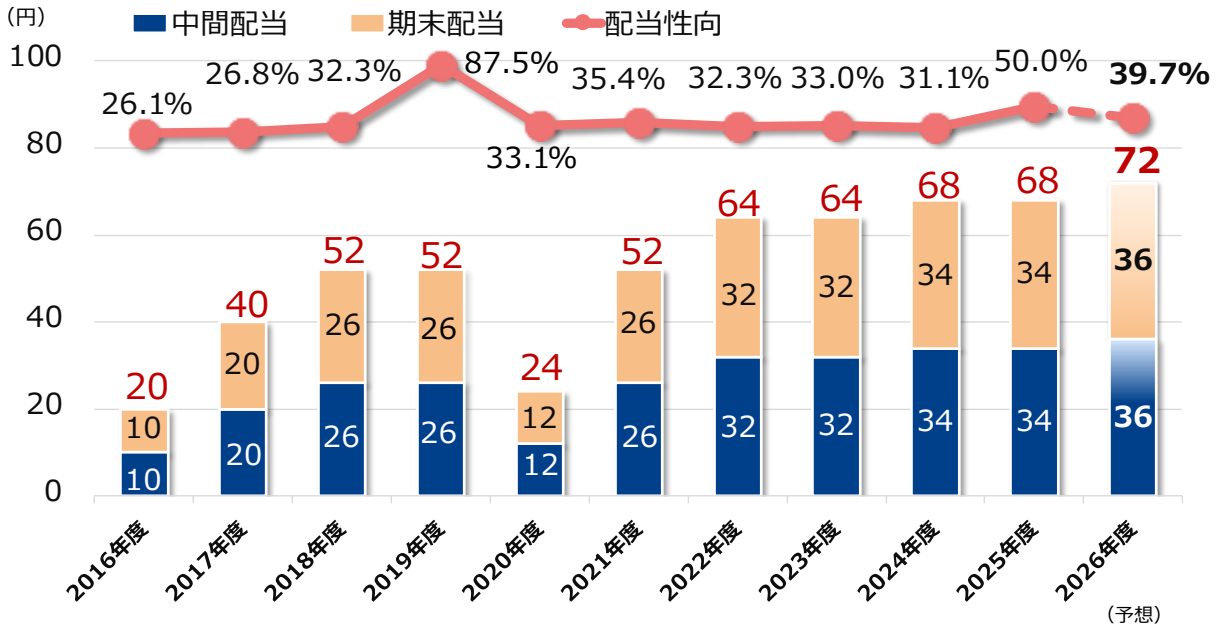
メカトロニクス応用領域の拡大については、JA全農と協業し、野菜や果物の収穫や選果ソリューションの現場展開を加速させるほか、医療や医薬品市場では、汎用ヒト型ロボット「まほろ」の導入範囲を拡大します。

次の22ページへお進みください。

株主還元（配当金推移）

- ・ 2025年度は一株当たり年間68円の配当を実施（配当性向 50.0%）
- ・ 2026年度は一株当たり年間72円の配当を予想（配当性向 39.7%）

配当金推移



株主還元についてご説明いたします。

25年度の配当金は、期初にお知らせしていましたが、一株当たり68円となり、配当性向は50%となりました。

26年度につきましては、中間配当36円、期末配当36円の年間72円と、一株当たり4円の増配を予想しています。

これにより、26年度の配当性向は39.7%となる見込みです。

24ページへお進みください。

3. 参考資料

設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位: 億円)

	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (計画)
設備投資額	406.7	570.4	580.0
減価償却費	208.0	210.8	260.0
研究開発投資	237.7	240.1	240.0

為替レート

(単位: 円)

	2024年度 (実績)			2025年度 (実績)			2026年度 (想定)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
対 米ドル	153.7	151.6	152.7	146.2	153.7	149.9	145.0
対 ユーロ	166.6	161.3	164.0	166.0	179.8	172.8	170.0
対 元	21.23	21.01	21.12	20.26	21.80	21.01	20.50
対 ウォン	0.113	0.108	0.111	0.104	0.107	0.105	0.105

為替感応度

(単位: 億円)

	1%変動による影響額目安 (2025年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	13.4	3.1
ユーロ	6.8	0.9
元	11.6	3.1
ウォン	4.6	1.6

2026年度の設備投資計画につきましては、システムエンジニアリングの南行橋事業所や、モータとロボットの一貫生産を行うロボット第5工場関連の投資、米国投資などを織り込み、580億円となる想定です。

想定為替レートは、記載の通りです。

28ページへお進みください。

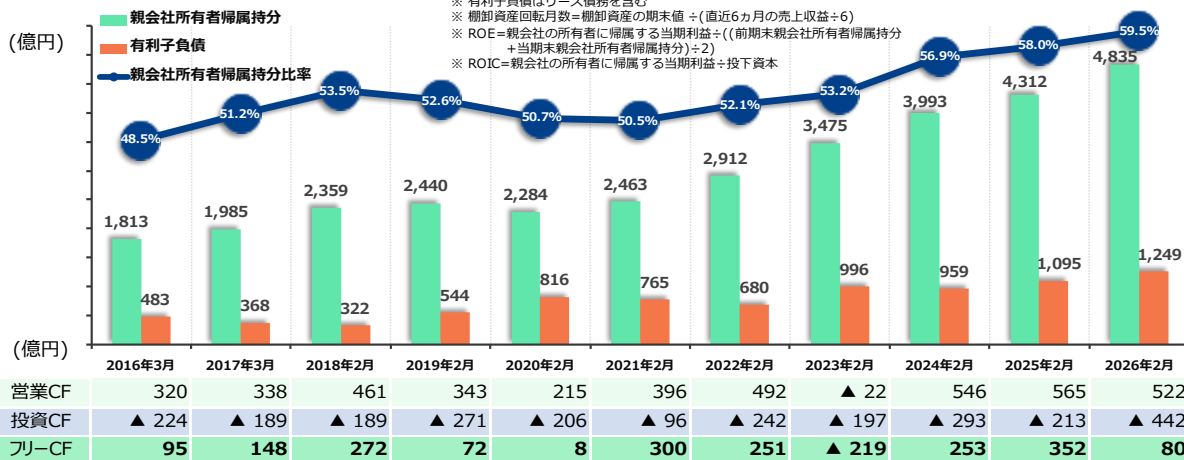
B/S構造の推移

2025年2月28日時点

- 親会社所有者帰属持分比率 58.0%
- 親会社所有者帰属持分 4,312億円
- 有利子負債 1,095億円
(現金及び現金同等物) 590億円
- D/Eレシオ 0.25
(ネットD/Eレシオ) 0.12
- 棚卸資産 2,063億円
(回転月数) (4.5ヶ月)
- ROE 13.7%
- ROIC 12.2%

2026年2月28日時点

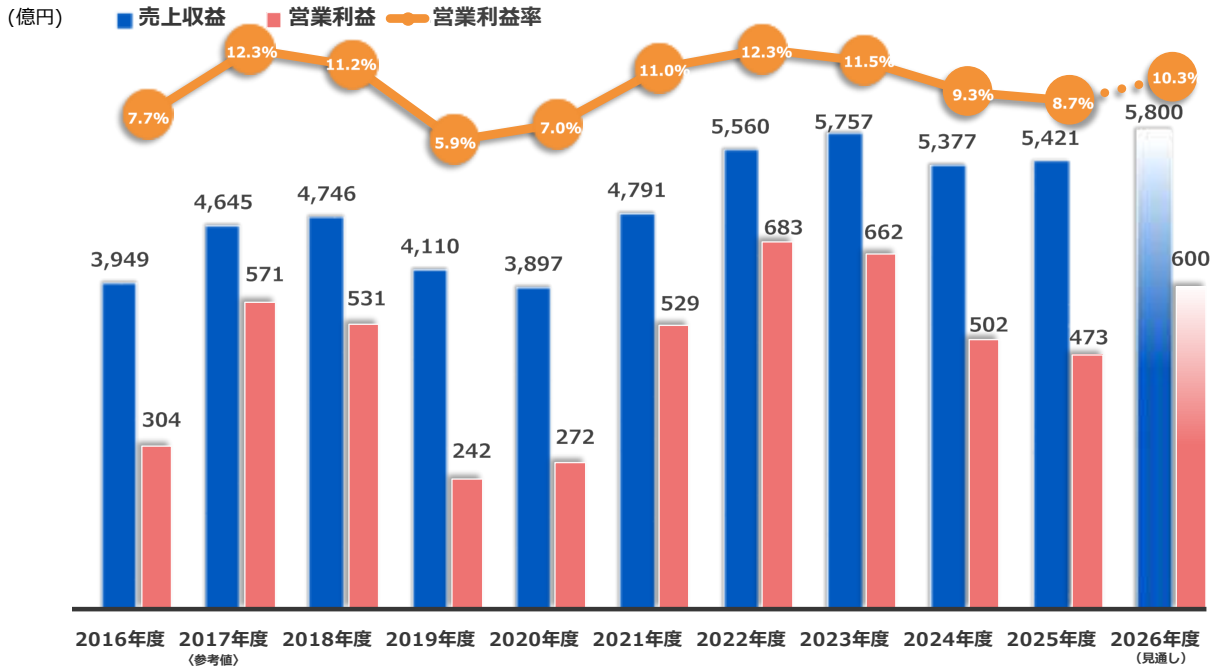
- 親会社所有者帰属持分比率 59.5%
- 親会社所有者帰属持分 4,835億円
- 有利子負債 1,249億円
(現金及び現金同等物) 612億円
- D/Eレシオ 0.26
(ネットD/Eレシオ) 0.13
- 棚卸資産 2,108億円
(回転月数) (4.5ヶ月)
- ROE 7.7%
- ROIC 6.9%



※ 有利子負債はリース債務を含む
 ※ 棚卸資産回転月数=棚卸資産の期末値÷(直近6カ月の売上収益÷6)
 ※ ROE=親会社の所有者に帰属する当期利益÷((前期末親会社所有者帰属持分+当期末親会社所有者帰属持分)÷2)
 ※ ROIC=親会社の所有者に帰属する当期利益÷投下資本

[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

売上収益・営業利益推移 (2016年度～2026年度見通し)



Dash 25

Challenge 25 Plus

Realize 25

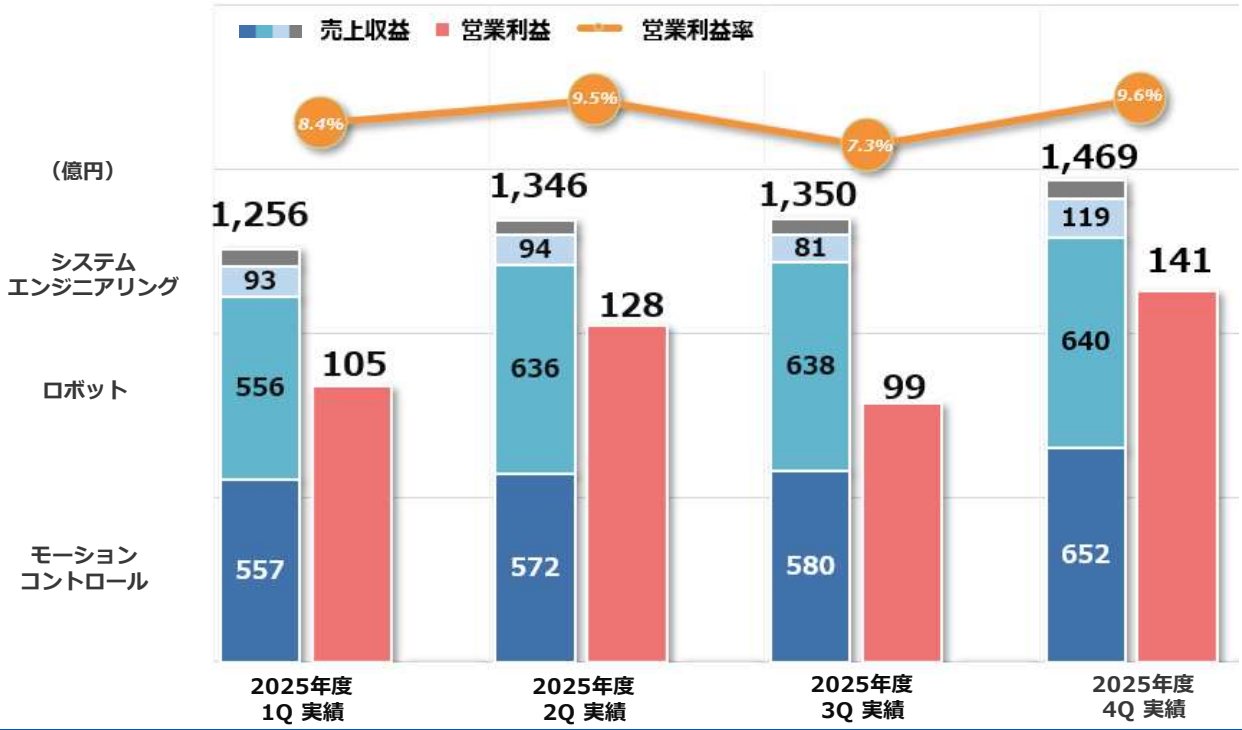
Dash 35

中期経営計画

[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載

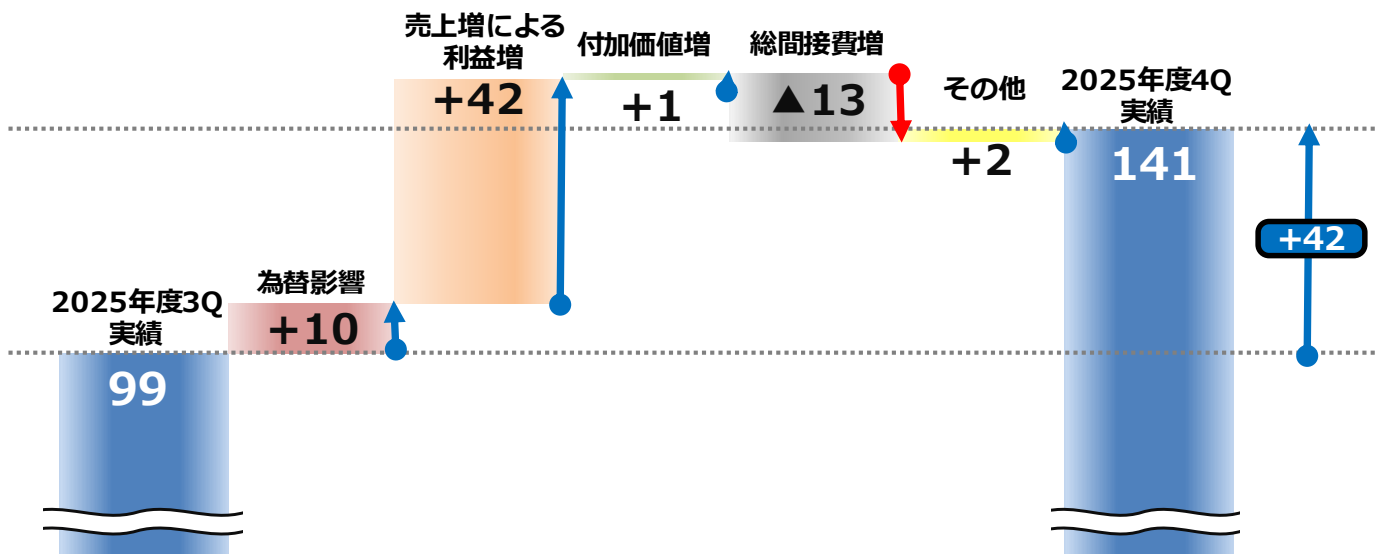
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

売上収益・営業利益 四半期推移



直近四半期営業利益増減要因分析 (2025年度 3Q → 2025年度 4Q)

(単位：億円)



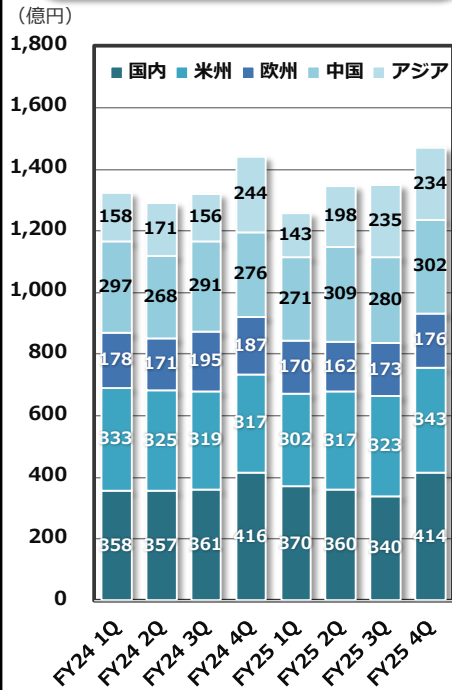
内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 5	+ 29	+ 8	▲ 8	+ 2
ロボット	+ 4	▲ 7	▲ 6	+ 8	+ 1
システムエンジニアリング	+ 0	+ 19	▲ 1	▲ 3	▲ 0
その他	+ 0	+ 1	+ 0	▲ 9	▲ 0

今回からご参考として、直近四半期の営業利益の増減要因分析をこちらに記載しております。ご参照ください。

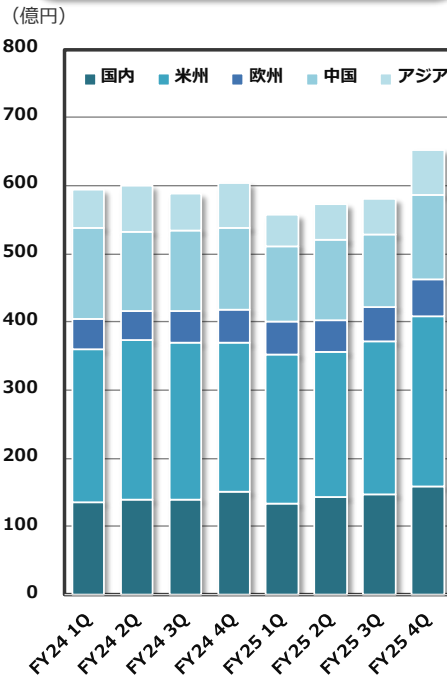
以上をもちまして、2025年度 通期 業績概要の説明を終わります。ご清聴いただき、ありがとうございました。

売上収益 四半期推移

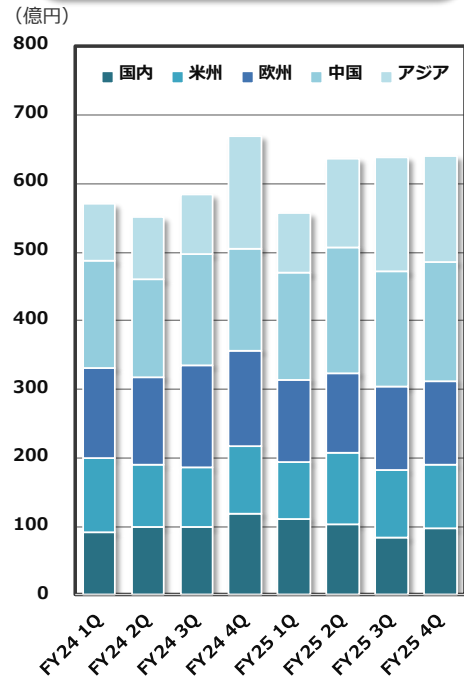
全社



モーションコントロール



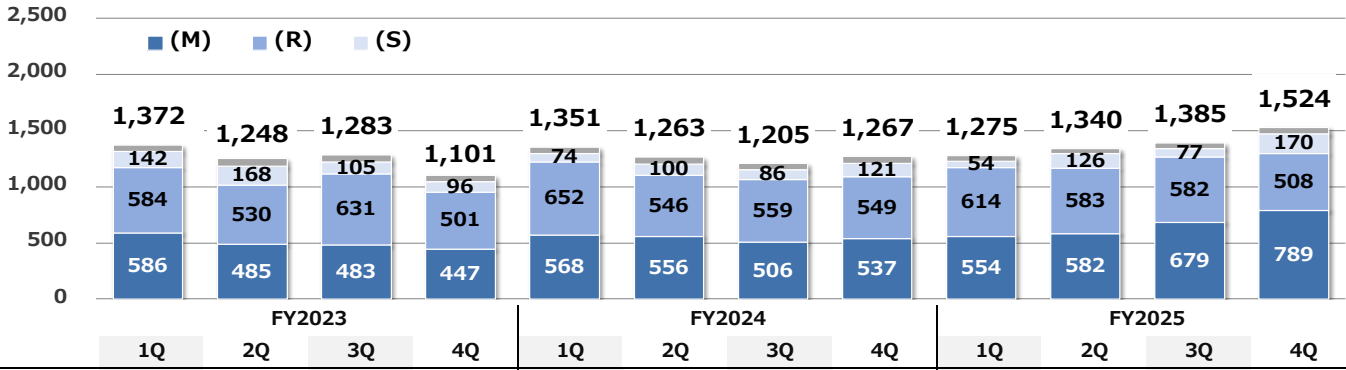
ロボット



四半期受注推移 (セグメント別)

※為替は期中平均レートを使用

(億円)



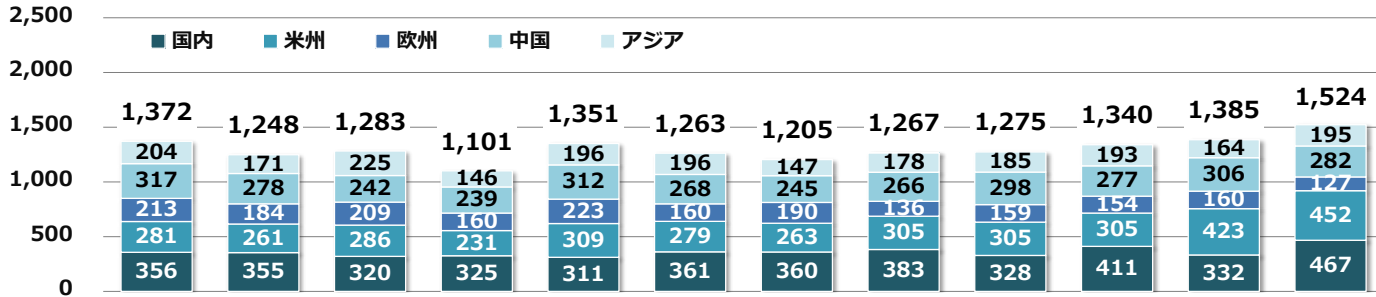
会社		FY2023				FY2024				FY2025			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
全社	YoY	▲18%	▲25%	▲18%	▲13%	▲1%	+1%	▲6%	+15%	▲6%	+6%	+15%	+20%
	QoQ	+8%	▲9%	+3%	▲14%	+23%	▲7%	▲5%	+5%	+1%	+5%	+3%	+10%
YoY	(M)	▲27%	▲38%	▲19%	▲16%	▲3%	+15%	+5%	+20%	▲2%	+5%	+34%	+47%
	(R)	▲10%	▲15%	▲6%	▲8%	+12%	+3%	▲11%	+10%	▲6%	+7%	+4%	▲7%
	(S)	▲11%	▲1%	▲48%	▲27%	▲48%	▲40%	▲18%	+26%	▲27%	+25%	▲11%	+40%
QoQ	(M)	+9%	▲17%	▲0%	▲7%	+27%	▲2%	▲9%	+6%	+3%	+5%	+17%	+16%
	(R)	+7%	▲9%	+19%	▲21%	+30%	▲16%	+2%	▲2%	+12%	▲5%	▲0%	▲13%
	(S)	+8%	+19%	▲37%	▲9%	▲23%	+36%	▲14%	+41%	▲55%	+132%	▲39%	+122%
為替レート	円/ドル	134.9	142.5	149.1	146.7	153.2	154.1	149.1	154.1	146.2	146.3	151.4	156.0
	円/ユーロ	146.1	155.7	159.3	159.4	165.5	167.6	162.1	160.6	162.0	169.9	176.3	183.3

[注] 表記: (M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期受注推移 (所在地別)

※為替は期中平均レートを使用

(億円)



Total		FY2023				FY2024				FY2025			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
Total	YoY	▲18%	▲25%	▲18%	▲13%	▲1%	+1%	▲6%	+15%	▲6%	+6%	+15%	+20%
	QoQ	+8%	▲9%	+3%	▲14%	+23%	▲7%	▲5%	+5%	+1%	+5%	+3%	+10%
YoY	国内	▲23%	▲31%	▲26%	▲11%	▲13%	+2%	+13%	+18%	+6%	+14%	▲8%	+22%
	米州	▲19%	▲30%	▲12%	▲23%	+10%	+7%	▲8%	+32%	▲1%	+9%	+61%	+48%
	欧州	▲13%	▲2%	▲21%	▲28%	+5%	▲13%	▲9%	▲15%	▲29%	▲4%	▲16%	▲7%
	中国	▲27%	▲26%	▲41%	+3%	▲1%	▲3%	+1%	+11%	▲5%	+3%	+25%	+6%
	アジア	+10%	▲20%	+72%	▲2%	▲4%	+14%	▲34%	+22%	▲6%	▲1%	+11%	+10%
QoQ	国内	▲3%	▲0%	▲10%	+2%	▲5%	+16%	▲0%	+6%	▲14%	+25%	▲19%	+41%
	米州	▲6%	▲7%	+10%	▲19%	+34%	▲10%	▲6%	+16%	+0%	▲0%	+39%	+7%
	欧州	▲4%	▲13%	+14%	▲24%	+40%	▲28%	+19%	▲28%	+17%	▲3%	+4%	▲21%
	中国	+37%	▲12%	▲13%	▲1%	+30%	▲14%	▲9%	+9%	+12%	▲7%	+10%	▲8%
	アジア	+37%	▲16%	+31%	▲35%	+34%	▲0%	▲25%	+21%	+4%	+5%	▲15%	+19%

売上収益における為替影響

	前年同期比	
	2025年度 通期	2026年度 見通し
全社	▲24	▲112
モーションコントロール	▲15	▲63
ロボット	▲8	▲45
システムエンジニアリング	▲1	▲3
その他	▲0	▲1

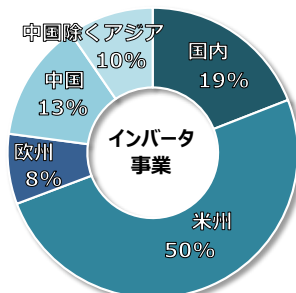
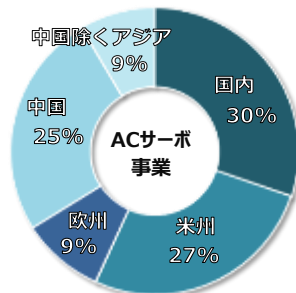
(単位: 億円)

連結受注 事業別・所在地別増減率

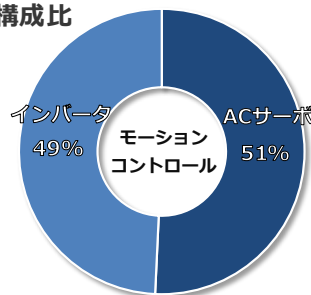
FY2025 4Q 受注	モーションコントロール		ロボット	
	YoY	QoQ		
全社	YoY	+44%	+50%	▲7%
	QoQ	+38%	▲1%	▲13%
YoY	国内	+31%	+19%	▲9%
	米州	+81%	+67%	+3%
	欧州	+32%	+40%	▲23%
	中国	+9%	+55%	▲5%
	アジア	+102%	+24%	▲6%
QoQ	国内	+33%	+17%	+7%
	米州	+60%	▲17%	+23%
	欧州	+15%	▲9%	▲32%
	中国	+10%	+26%	▲23%
	アジア	+85%	+149%	▲18%

モーションコントロールセグメント
2025年度 売上収益構成比

所在地別売上収益構成比



事業別売上収益構成比



YASKAWA

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>